

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Differences in health literacy related to gestational weight gain and children's birth weight according to maternal nativity status in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a longitudinal cohort study

和文タイトル:

エコチル調査参加者における妊娠中体重増加量に関する知識と子どもの出生時体重の母親の国籍による違い

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMJ Open

年: 2024 DOI: 10.1136/bmjopen-2023-076899

筆頭著者名: 城川 美佳

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

本研究では、妊婦の妊娠中の体重増加量に関する知識及び実際の体重増加量と子どもの出生時体重との関連を母親の国籍(日本籍と外国籍)で比較した。

方法:

エコチル調査の3歳時全国固定データを用いて、多胎、複数回同意、流産、死産のケースおよび同意撤回のケースを除外した67,953名のデータを用いた。そのうち、外国籍の母親は324名であり、母親の特性と環境因子を用いた傾向スコアマッチングを行い、1:3の比率で日本国籍の母親963名を抽出した。妊娠中の質問紙調査により、妊娠中の望ましい体重増加量に関する知識とそう思う理由を把握し、医療情報から把握した実際の体重増加量、および子どもの低出生時体重の有無を比較した。

結果:

適切な体重増加量を知っていると回答したのは、外国籍の母親よりも日本籍の母親に多かった。また、適切と思う体重増加量の具体的な数値は、外国籍の母親で有意に大きかった。適切な体重増加量を維持することが大切である理由として、「出産が楽だから」と回答した母親は日本籍で有意に多かったが、他の回答では違いが見られなかった。栄養指導の受講者の割合および産科合併症の出現割合に違いはみられなかった。実際の妊娠中の体重増加量は外国籍の母親の方が有意に大きかったが、両群ともに適切な体重増加量の範囲内であった。低出生時体重児の出現割合は、日本籍の母親で有意に多かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究でみられた妊娠中の体重増加量に関する知識の違いは、研究参加者の妊娠中の栄養指導の受講状況や産科医受診状況には日本籍かどうかによる違いがないと考えられることから、日本籍の母親には医療従事者以外からの情報提供があることが推察される。自治体から提供される日本語版と英語版の母子健康手帳に比べて、それ以外の言語版は情報量が少なく、かつNGOにより作成・提供されている。このことが、本研究でみられた知識の違いと関連している可能性がある。本研究の限界として、1)母親の国籍のみでは人種や出身地での生活に関する情報が十分に得られていないこと、2)エコチル調査での外国籍の母親の割合は日本全体に比べて小さく、抽出バイアスが生じている可能性があること、の大きく2つが挙げられる。

結論:

外国籍の母親は、日本籍の母親に比べて、適切な妊娠中体重増加量に関する知識が欠如している可能性があるが、実際の体重増加量は適切であり、かつ低出生時体重児の出現割合も小さかった。このことは外国籍の母親では妊娠または出産に対する他の保護因子が存在することを示している可能性がある。